

い
か
り

佛教大学研究叢書 25

碇の文化史

石原 渉 著

▼A5判・二三〇頁／定価：本体五、八〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1791-5

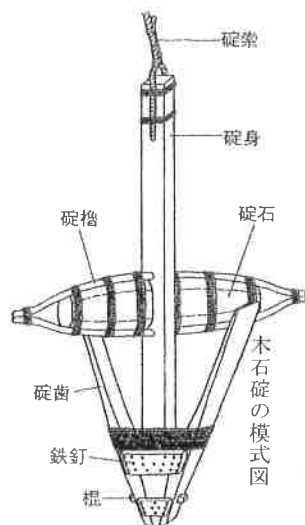
【二〇一五年四月刊行】

船や海事の象徴としてよく表される碇（いかり）だが、その先行研究は希薄であった。

本書では、先史の時代から石や木で作られた碇が、鉄の錨（いかり）へと移り変わっていくまでの形態上の変化と発展の系譜をたどる。

歴史学という大きな枠組みの中から、時には水中考古学の見地から遺物をとらえ、またあるときは文献資料や絵画資料を駆使し、民俗例や伝承、風俗といったものも絡めて、

碇をただ単なる繫船具というだけでなく、碇の変遷を通して見えてくる文化史を浮き彫りにしていく一書。



○ 内容目次 ○

序 章

研究の視点／研究の方法／船の発達史

第一章 先史時代のイカリ

イカリと錘について／先史時代の礫石錘／縄文時代の礫石錘／弥生時代の礫石錘／礫石錘の形態分類／先史時代のイカリに関する考察

第二章 古墳時代と古代のイカリ(碇)

古墳の線刻画にみるイカリの表現／船形埴輪にみる古墳時代の船／鳥取県高松青谷町の岡古山二二号墳にみる船とイカリの線刻画／古墳時代のイカリ／文献にみる古代の沈石・重石／船戸遺跡から出土した古代の碇／イカリという名称について／絵画資料にみる遣唐使船と碇の資料／考察

第三章 「入唐求法巡礼行記」にみる碇(釘)

承和遣唐使節団の派遣にいたる経緯／承和の遣唐使節団の航海／長江河口における碇(釘)の使用例／新羅船による沿岸航路上における碇(釘)の使用例／座礁時における碇(釘)の使用例／文登県清寧郷赤山村における碇(釘)の補充／「入唐求法巡礼行記」にみる碇(釘)に関する記載と考察

第四章 中世の碇

日本国内出土の碇石とその研究／中国国内の碇石の変遷／長崎県松浦市鷹島町沖出土の碇石／海底に埋没していた大型碇の出土／碇石の諸形式(分類と編年)／蒙古襲来時の蒙古軍船とその碇石／中国山東省蓬萊出土の碇石

第五章 中世和船の碇

「蒙古襲来絵詞」に描かれた和船の碇／「一遍聖絵」にみる和船の碇／二つの天神縁起にみる船の碇と放置された碇の図／「海図編纂」に描かれた和船／水の子／中世の和船の碇／鎌倉市の光明寺旧境内から出土した碇／高松城西の丸海底から引き揚げられた棒状石／元島遺跡から出土した碇

第六章 鉄製錨の登場とその原因

鉄製錨の登場(中国)／鉄製錨の登場(日本)／「錨」という表記について／碇を喰ったフナクイムシの存在／素材からみた碇の変遷

第七章 近年国内で発見された碇石について

茨城県波崎町の碇石／碇石の由来について／南西諸島および沖縄本島近海から発見された碇石

終 章

先史時代のイカリについて／古墳時代のイカリと古代の碇について／古代の用碇法について／中世の和船の碇と船の碇について／鉄製の登場について／素材からみた碇の変遷／構造からみた碇(イカリ)の変遷／用途からみた碇の変遷

いしはら・わたる：一九五四年長崎県生。一九七六年東海大学海洋学部海洋工学科卒業、一九八〇年明治大学文学部史学地理学考古学専攻卒業、二〇一四年佛教大学大学院博士課程文学研究科日本史学専攻修了。博士(文学)。現在、(公財)日本習字教育財団理事・同付属博物館「観峰館」副館長。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票

発 行：思 文 閣 出 版

(京都 取引コード 3402)

冊 数	冊	碇の文化史		本体5,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1791-5			
お 名 前		tel						
		e-mail						
ご 住 所	〒							
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)							
	☐ 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)							

本書HPのQRコード

書店番線印

本書HPPのQRコード

書店番線印

南蛮・紅毛・唐人 一六・一七世紀の東アジア海域 中島樂章編

16～17世紀の東アジア海域は、多様なエスニシティをもつ人々が混在し、モノやヒト、そして文化や情報が海をこえて運ばれた。本書では「南蛮」「紅毛」「唐人」、そして彼らと接した「倭人」たちが残した証言を、さまざまな視角から多面的に論じることにより、東アジア海域における「紛争と交易の時代」のダイナミズムを描きだす。
▶A5判・418頁／本体6,800円(税別) ISBN978-4-7842-1681-9

※近世東アジア海域の文化交渉

松浦章著

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波濤を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後に登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。
▶A5判・472頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1538-6

大航海時代の日本の金属交易

別府大学文化財研究所企画シリーズ③

平尾良光・飯沼賢司・村井章介編

分析科学と文献史学の融合を目指す別府大学文化財研究所企画シリーズ第3弾。最新の鉛同位体比分析の成果から、日本の銅生産や中世～近世日本の金属流通のありよう、南蛮貿易の意義などに新たな視角を提示する。巻末に戦国時代関連資料の鉛同位体比一覧を掲載。
▶B5判・224頁／本体3,500円(税別) ISBN978-4-7842-1768-7

一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。
▶A5判・582頁／本体8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1580-5

大地へのまなざし 歴史地理学の散歩道

金田章裕著

古代日本の条里制から世界地図まで、歴史地理学のおもしろさを紹介するとともに、グローバルな研究を展開してきた著者が折りに触れて書き継いできた諸論稿をまとめる。【内容】道行く人びと／景観史への道程―「条里制」研究から何が見えるか／町と村の発達―宇治と巨椋池周辺／英国の世界認識と世界派遣 ほか
▶A5判・322頁／本体4,500円(税別) ISBN978-4-7842-1405-1

平安時代貿易管理制度史の研究

渡邊誠著

9世紀以降、日本の対外貿易は朝鮮半島・中国大陸から来航する海外の商人(海商)によって担われてきた。従来、平安時代の貿易に対する国家の関与は、内外の交易者と対立的に捉えられることが多かった。本書は海商の貿易活動を国家が管理する「制度」を中心にすえて、その消長を明らかにすることで、新たな貿易史像を提示する。
▶A5判・396頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1612-3

船筆筒の研究

小泉和子著

近世海運において船乗り達が船内に持ち込んで使っていた収納家具、船筆筒。本書はその成立から終息までを歴史的に考察し、デザインの形成を検証の上、その本質を明らかにする。様式史としてではなく、船筆筒自体を歴史を語る史料として試みた意欲的な一書。巻末に基礎資料として、浦証文一覧と船筆筒215点の写真付き詳細データを収録。
▶A5判・410頁／本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1503-4

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査・装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・栄山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。
▶A5判・380頁／本体6,300円(税別) ISBN4-7842-0482-2

朱印船貿易絵図の研究

菊池誠一編

17世紀の日本と東南アジアの交易や、ベトナムの港町ホイアンに存在した「日本町」の様子を描いた二つの絵図、名古屋市情妙寺所蔵「茶屋交趾貿易渡海絵図」と、新出史料である九州国立博物館所蔵「朱印船交趾渡航図巻」。この二つの絵図の精彩なカラー図版にくわえ、美術史・歴史学および考古学など多彩な研究者による6篇の論考を収録。
▶A4判横綴・104頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1712-0

近世中国朝鮮交渉史の研究

松浦章著

近世中国と朝鮮国との交渉について、朝鮮から北京に赴いた赴京使による定期的な外交交渉と、漂着船や交易船による不定期な海を介した交渉の両面から考察する。付録として、天理大学附属天理図書館蔵の「漂人間答」を全文影印掲載。
▶A5判・328頁／本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1709-0

北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、あわせて文化遺産としての工芸芸術を紹介する。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆による全34編。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録。
▶A4判・150頁／本体2,800円(税別) ISBN4-7842-1087-3

漂流記録と漂流体験

倉地克直著

漂流体験は、奉行所や藩でつくられる公式記録にとどまらず、民間でも記録され、さまざまな形で残された。本書では1830年に漂流した神力丸の漂流記録を比較検討し、漂流記録の史料的価値についての試論を示す。さらに記録を通して漂流体験を再現し、漂流民の異国認識や異国交流の実態を探る。
▶A5判・352頁／本体7,500円(税別) ISBN4-7842-1225-6

古代日本の衣服と交通 装う王権 つなぐ道

武田佐知子著

衣服と交通一、そしてそこから派生する境界・王権・民族標識・異性装などの諸問題…。これらは古代国家の形成、律令国家による国家統合等を考えるさいのキーワードとなる。2014年3月に大阪大学を退職する著者による長年の研究成果を集成。
▶A5判・420頁／本体6,800円(税別) ISBN978-4-7842-1723-6

近世琵琶湖水運の研究

杉江進著

近世における堅田の変貌、後背地との結びつきにより分けられる三地域(「諸浦の親郷」(堅田・大津・八幡)・湖北四ヵ浦・彦根三湊)の対抗関係、船の航行と船支配の関係という三つの視点を基軸に、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究する。
▶A5判・464頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1551-5

世界を巡る美術探検

木村重信著

和・漢・洋中心の美術史に一貫して異を唱え、民族芸術学を提唱してきた著者が、北極・南極・シベリアを除く、世界のほぼ全域で行ったフィールドワークのルポルタージュ。35の地点や地域をとりあげる。ヨーロッパ・アジア・アフリカ・オセアニア・アメリカの5つに分けて、先史時代から現代まで時代順に構成。
▶A5判・308頁／本体2,400円(税別) ISBN978-4-7842-1638-3

キリシタン大名の考古学

別府大学文化財研究所企画シリーズ②

別府大学文化財研究所・九州考古学会・太分県考古学会編
単に考古学的成果をまとめるだけではなく、領域を越えて、文献学や分析科学などの他領域の成果も融合し、新しい戦国城下論・キリシタン考古学論・流通論など、新たな研究手法を提示する。
▶B5判・178頁／本体3,800円(税別) ISBN978-4-7842-1472-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。